

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立	瀬戸小	学校						
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標 児童・職員アンケート（6⇒11月） 保護者アンケート（7⇒12月）予定	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	課題発見・ 解決力の育 成と基礎学 力の向上	★	新規	単元構想・授業 展開の工夫を図 り、学びを広 げ・深め、基礎 学力を伸ばす。	○基礎学力の向上のための取組 ①「単元を貫く問い」を意識し て課題発見解決学習を展開する ②授業コーディネート力向上の ための研修を実施する ③適正な見取りで指導と評価の 一体化を図り、学習をあきらめ る児童を作らない。 ④全教員が「チャレンジ単元」 を設定、授業公開してお互いに 見せ合う。 ○家庭学習時間を把握する調査 及び家庭連携を進める。	○標準学力調査において昨年度 （R7.1）における全国比マイナス 差を半減させる ○児童アンケート（肯定的評価 85%） ①自ら問いをもち、考えている。 ②自分の考えを伝えたり、友達 の考えを聞いたりして、新たな考え や疑問をつくっている。 ③最後まであきらめず、粘り強く 学んでいる。 ○家庭学習に取り組む時間を、年 度当初との比較で30%増	【指標2】児童アンケート ① 85% ② 86% ③87% □課題解決型の模擬授業 を行い、イメージを共有 した。 □指導と評価の一体化を 図るために、見取りや手 立てについて研修・協議 を行った。 □「チャレンジ単元」を 6・9月に設け、授業を参 観し合った。 【指標3】家庭学習36分 □家庭学習時間を増やす 取組を企画した。	3	3	○児童が自ら問いをもち課 題解決できるよう、教材研 究ノートの充実を通して授 業力量向上を図る。 ○対話を広げるための発問 や問い返しの精選につい て、授業研究で深める。 ○粘り強い学びを育むた め、教員同士が授業を見合 い、課題を共有して改善を 図る。 ○家庭学習へつながる授業 づくりや、児童の意欲を高 める取組を進める。	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況 ○児童の学びに向かう姿が大き く変容した。 【指標1】標準学力調査の結果 …第4・5学年共に達成した。 【指標2】児童アンケート① 84% ② 82% ③86% □課題解決型の授業づくりのた め教材研究ノートでイメージの 共有を図った。 □評価問題の作成、実施を通し て、個別の支援を深めた。 □「チャレンジ単元」で授業を 相互参観し、助言し合った。 【指標3】家庭学習38分 □キュビナ利用を促進する取組 を実施した。	3	4	4	○児童が友達の考えを聞いて 新たな考えや疑問をつくるこ とができるよう、考えを「深 める」ための教材研究・授業 づくりの研修を通して授業力 量向上を図る。 ○対話を広げるための発問や 問い返しの精選について、授 業研究で深める。 ○粘り強い学びを育むため、 教員同士が授業を見合い、課 題を共有して改善を図る。 ○家庭学習の意味づけや授業 と家庭学習がにつながる取組 を通して、児童の意欲を高め る。
4	豊かな心の 育成		継続	安心感・自己効 力感、思いやり の心を引き出 し、行動化で きる子どもたち を育てる。	○児童会活動、委員会活動等の めあてや計画を子ども自身が話 し合って決め、それぞれの役割を 明確にして成功体験を積みませ る。 ○「学活・道徳・行事」と日々 の学級活動を関連付け、積極的 な相互評価を通して、自己肯定 感を高める。 ○連続欠席や遅刻の未然防止お よび初期対応に関する取組や支 援について、チームで即時、継 続して行う。	○児童アンケート（肯定的評価 85%以上） ①学級で、安心して過ごしてい る。 ②学校や学級の役に立っている。 ③出会った人の心に届く、あいさ つをしている。 ④自分の良い所を発見できる。 ○連続欠席・遅刻数の昨年比減少	【指標1】児童アンケート の結果 ①89% ②77% ③87%④84% □児童会活動や委員会活 動において、児童が主体 的に取り組み、自己肯定 感が高まってきている。 【指標2】連続欠席につい ては、1学期の長期欠席 （30日超え）4名（昨年 同時期比4名減）	3	3	○児童会や委員会、学校行 事において、児童の充足感 が一層高まるよう、児童の 相互評価の場を増やしてい く。 ○学級の中で一人一人が役 割をもてるようにし、みん なのために役に立っている と感じられるようにする。 ○連続欠席をしている児童 や保護者と粘り強く連携し ながら、一人ひとりに寄り 添っていく。	【指標1】児童アンケート の結果 ①86% ②73% ③85%④79% □児童会活動や委員会活 動、学級での係活動など みんなのために意欲的に 頑張れる児童が多かった が、その数値も中間時点 より3～5ポイント低下し た。 【指標2】連続欠席につい ては、2学期までの長期欠 席（30日超え）14名（昨 年同時期比5名減）	3	4	4	○児童会や委員会、学校行事 において、児童主体の場をも く設定し、児童の充実感と自 己肯定感につながるようにし ていく。 ○学級で全員が役割をもてる ように設定し、定期的に振り 返しを行うようにする。 ○連続欠席をしている児童や 保護者と関係を絶やさないよ うにし、それぞれの家庭に あった対応をしていくように する。
5	運動が好き な児童の育 成		継続	「運動すること は楽しい・面白 い」と実感で きる学習活動と評 価を工夫し、運 動が好きな児童 を増やす。	○体育の授業や外遊びを通し て、「多様な他者とよりよく関 わることの楽しさ」や「体力・ 技能の向上による喜び」を実感 できるよう、指導・支援・評価 の方法を見直す。 ○体育レク委員会を中心に次に 取り組む。 ①規則正しい生活習慣の定着の 呼びかけを行い、生活習慣の向 上を図る。 ②授業や家庭で取り組める運動 を全校に紹介する。	○児童アンケート（肯定的評価 90%） 「友達と関わり合って運動するこ とは楽しい。」 ○新体力テスト 「上体起こし」で自己ベスト更新 90%以上（5月⇒再テスト12 月） ○健康ウィーク3項目達成率 80%以上	【指標1】児童アンケート 肯定的評価 95% □新体力テスト「上体起 こし」では、令和6年度体 力調査と比較して、1年生 男子が0.5ポイント上回 り、その他学年では、全 国平均を下回る結果と なった 【指標2】健康ウィーク事 前調査 ① 22時までに就寝 67% ② 十分に運動していると 感じている児童 70% ③ 朝食の摂取率 85%	3	3	○運動会や体育レク委員会の行事 を通して、友達と運動する楽しさ を児童に実感させる。 ○月1回フランクの記録を測定す る場を設け、前月との比較をする ことによって、体力向上による喜 びを実感させる。 ○体育レク委員会を中心に体幹運 動（フランク運動）を推進し、授 業や家庭学習に取り入れる。 ○体育レク委員会を中心に、睡眠 の大切さについて啓発を行う。保 健日より保護者にも啓発する。	【指標1】児童アンケート 肯定的評価 92% □運動会や鬼ごっこ企画など、 友達と体を動かす機会を設定し た。 □新体力再テストの結果は、学校 全体で2～3ポイント上昇した。 □「上体起こし」自己ベスト更新 65% 【指標2】健康ウィーク事後調査 ①22時までに就寝 74% ②十分に運動していると感じてい る 82% ③朝食の喫食率 92% □体育レク委員会や保健日より等 を活用し、家庭への周知・啓発を 行った。	3	3	3	○運動会や鬼ごっこ企画などの行事的 な取組に加え、日常の体育授業におい ても、友達と関わり合いながら運動で きる授業展開を提案し、計画的に推進 していく。 ○「上体起こし」の向上を目的として フランク運動を家庭学習で取り入れた が、取組状況には個人差が見られた。 今後は、家庭学習に加え、授業の導入 時など短時間で継続して取り組める運 動を提案し、習慣化を図っていく。 ○就寝時刻や朝食の喫食だけでなく、 ゲームや動画視聴など生活習慣に付随 する行動にも着目し、望ましい生活リ ズムについて継続的に呼び掛けてい く。
5	信頼される 学校づくり の推進		継続	学びづくりに向 かう時間を生み 出し、子どもの 姿で保護者・地 域とつながるこ とで、教職員の やりがいを高め 、学校信頼を得 る。	○保護者・地域とつながるた め、子ども達の学びの姿をHP等 で発信する。 ○「学びづくり」に向かう時間 を生み出すために次に取り組む。 ①生成AIの活用法研究、積極活 用で教務業務、学級事務の時間 短縮を図る。 ②働き方の見直しを立てる （月・週別）	○保護者アンケート（95%以上） 「授業等を通して我が子は成長し ている」 ○職員アンケート（90%以上） ①働き方の工夫・改善を行うこと で、「学びづくり」に向かう時間 を生み出している。 ②「仕事にやりがいを感じてい る」 ○時間外勤務時間月45時間以上の 教職員が月平均1.0人以下	【指標1】保護者 95% □HPの更新方法を全職員で 共有し、スキルを向上させ た。 【指標2】職員 ①75% ② 89% □月中行事の表記を工夫し、 主任・主事を中心に時間の自 己管理を促した。 【指標3】時間外勤務で月 45時間を超えた職員 … 4月 から9月までの間は1人しか なかった。	3	3	○学力の定着状況を保護者に 分かりやすく伝える。 ○学びに向かう児童の様子を HPで隔週発信する。 ○主任・主事を中心に優先順 位をつけて業務を計画するこ とで「学びづくり」の時間を 確保する。 ○報道相報のサイクルを活用 し、トラブルの未然防止や保 護者連携における組織的対応 に取り組む。	【指標1】保護者 97% □HPや通信等で児童の頑張 りを保護者と共有することが できた。 【指標2】職員 ①68% ② 96% □各主任・主事を中心に月中 行事等を活用し、見直しを立 て、計画的に業務を行った。 【指標3】時間外勤務月45 時間を超えた職員…10月以 降いなかった。	4	3	3	○学校での児童の様子をHPや通 信等で定期的に発信すること で、保護者と情報共有をし、関 係を深めていく。 ○生成AIを積極的に活用するこ とで教務業務、学級事務の時間 短縮を図る。各主任・主事を中 心に業務・行事等の見直しをも つ。また、学年会を通して仕事 の優先順位を考えることで授業 づくりの時間を生み出す。

【プロセス評価の評価基準】

評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

【達成評価の評価基準】

評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

【総合評価の評価基準】

評価点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。